

第1学年 道徳学習指導案

ろ組 男子18名 女子17名 計35名
指 導 者 原之園 翔 吾

1 主 題 名 はたらくっていいな

C 「勤労、公共の精神」働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、親や教師の手伝いをしたり、掃除に取り組んだりすることを通して、相手が喜んでくれることを感じたり、働くことの楽しさを感じたりしてきている。しかし、怠惰な感情や利害損得などの考えから、自ら進んで行動できなかつたり、ほめられたり感謝されたりしないと働いたよさを実感できなかつたりしてしまうこともある。このようなことから、この期の子どもたちに、進んで働くことのよさや喜びを感じさせたり、みんなのために働くことのよさに気付かせたりすることによって、与えられた役割を自ら果たしていこうとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、みんなのために働くことの喜びを感じつつも、働くことが嫌になってしまう場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面と重ね合わせながら追究する活動を通して、自分に与えられた仕事を果たす喜びを感じながら、みんなの役に立とうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、働くよさを知り、みんなのために働く生き方は、自分の生活を明るく、気持ちよく過ごすことにつながることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

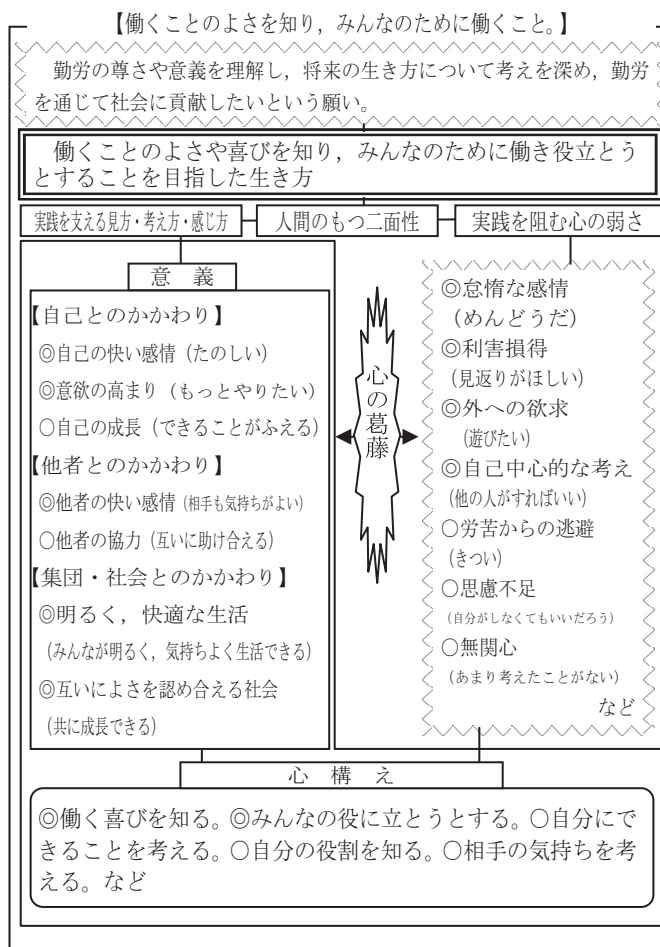
(2) 指導の基本的な立場

働くことのよさを知り、みんなのために働くことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

働くことのよさを知り、みんなのために働くこととは、みんなのために働くことの意義を理解し、自ら進んでみんなの役に立とうとすること、そのことによって、生活を明るくし、みんなが気持ちよく生活を送ることと捉えることができる。

ここでは、勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献したいという願いを基に、働くことのよさや喜びを知り、みんなのために働き役立とうとすることを目指す生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、働くことのよさを感じて、みんなの役に立とうと働くことで、自己の快い感情や意欲が高まること、また、他者



◎は重点的な学習内容

の快い感情につながることなどの意義を理解させたり、さらには、みんなが明るく気持ちよく生活できるなどの意義を理解させたりする。しかし、その一方で怠惰な感情や利害損得、外への欲求などの心の弱さから、なかなか望ましい生き方が実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの心の弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、働く喜びを知る、みんなの役に立とうとする、自分にできることを考える、自分の役割を知るなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、読み物資料「がんばれさくらじまフェリー」(学研教育みらい)を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

主人公のフェリーのダイゴは、毎日毎日同じ仕事ばかりで元気を失ってしまう。ところが、ダイゴは、係の前田さんに励まされたり、お客さんに感謝されたりしたことによって、元気を取り戻すという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公ダイゴの心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を重ね合わせて考えさせるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、資料の一読後の感想から、毎日の繰り返しの仕事にやる気を失ってしまうダイゴの心情と、前田さんやお客さんの励ましと感謝の気持ちに気付くことによって元気を取り戻したダイゴの心情を比較しながら考える中で、みんなの役に立つために働くことにかかわる意義・心構え、心の弱さを多面的・多角的に追究させる。その際、**自分の生活場面での見方・考え方・感じ方と関係付けながら、主人公の心情や心情の背景を追究できるようにするために、心の葛藤場面について話し合う活動を通して、自らの道徳的価値観を再構成させる対話活動を行う。**また、みんなのために働くことは、明るく気持ちのよい生活を送ることにつながることなどの意義を捉えさせるために、自分の考えをまとめていく中で、学習を通して変わったり、確かになったりした自分の考えやその理由をそれにつながる生活場面と具体的に関係付けながら、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、自ら進んでみんなの役に立つために働こうとする生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると思う。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの働くことのよさを知り、みんなのために働くことにかかわる経験やその時の心情、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義や心構え)等についての認識は以下のとおりである。

[表1] 手伝いなどをして働いた経験(総反応45)とその時の感情(総反応数35)

経 験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
料理の手伝い(調理・食器並べ・台拭き等)	22	手伝いをすることが楽しい	24
掃除の手伝い(お風呂掃除・玄関掃除等)	10	手伝いができて嬉しい	7
洗濯の手伝い(たたむ・干す等)	9	役に立てて嬉しい	1
その他(ペットの世話・草ぬき等)	4	わからない	3

[表2] みんなのために働けなかった時の心情(総反応35)

心 情	反応数(人)	心 情	反応数(人)
経験がない(お手伝いを拒否したことがない)	33	外への欲求(遊びたい)	1
怠惰な感情(めんどろ)	1		
労苦からの逃避(疲れる)	1		

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識（総反応数107）

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対自己	うれしい・気持ちがいい	34	対他者	うれしい・気持ちがいい	1	対集団・社会	明るく・気持ちよく生活できる	1
	みんなの役に立てる	3		(分からない)	34		(分からない)	34

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識 総反応数（36）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
みんなの役に立とうとする	3	働く喜びを知る	0	相手の気持ちを考える	0
自分の役割を知る	0	(分からない)	33		

[表1]の「手伝いをするのが楽しい」といった感情が多いこと、また[表2]の「経験がない」の多さから、子どもたちは任されたお手伝いを楽しみながら取り組んでいることが分かる。また、[表3]から、お手伝いをするのが「楽しさが増え、気持ちよく過ごせる」という意義につながっていると感じている子どもたちが多いことが分かる。その反面、[表3]の「分からない」の多さから、働くことの意義を対他者、対集団・社会とのかかわりで捉えられている子どもは少ない。また、[表4]から、働くときに大切にしている見方・考え方・感じ方（心構え）に意識的でない子供がほとんどである。

これらの実態から、「みんなの役に立とうとする」「働く喜びを知る」「相手の気持ちを考える」といった心構えや、「自分もみんなも明るく、気持ちよく生活することができる」といった意義を関係付けて考えさせながら、働くことのよさを知り、みんなのために働くこととはどういうことを深く追究させる必要がある。

一方、道德の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、互いの考えを比較し、関係付けながら、道德的価値に対する見方・考え方・感じ方（以後、見方等）を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、多様な道德的価値に対する見方等に触れさせていく際に、それらを視覚的にとらえられるようにするために、表情絵や板書の構成等を効果的に活用していく。さらに、学習を通して、自分自身の道德的価値に対する見方等がどのように変わったか、理由は何かな等を明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、働くことのよさを知り、みんなのために働くことにかかわる生き方のよさの実感を深める中で、子どもたちが、これまでの生活の中で体験して感じてきた道德的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を振り返らせ、みんなの役に立つために働くことのできた経験とできなかった際の心情とを対比させ、その疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道德的価値についての見方・考え方・感じ方を十分に深めたり広げたりさせるために、主人公のダイゴが周囲の励ましや感謝の気持ちによって元気を取り戻す場面に焦点化し、働くよさや喜びについて自らの生活場面と関係付けながら、多面的・多角的に追究させる。その際、役割演技を行い、心の弱さに共感する問いを行いながら、道德的価値に対する見方・考え方・感じ方を多様に表出させる。その後、「きついとやめたくなる」などの見方等と「きつくてもやる」などの見方等を比較させながら話し合わせることを通して、道德的価値観を再構成させる。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これから生かしていこうとする意欲を高めさせるために、自分の生き方を振り返らせる。その際は、資料中の主人公の考えや友だちの考え等、自分の見方等が広がったり、深まったりした理由を明確にさせる。さらに、これからの生活で大切にしたい気持ちや考えと、それを生かせるような生活場面の二つの視点で考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 働くことのよさを知り、みんなのために働くことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身がもつ心の葛藤を乗り越え、自ら進んでみんなの役に立とうとする気持ちを高めることができる。
- イ 働くことのよさを知り、みんなのために働くことにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかわりの中で、自らの生活場面での内面と重ね合わせて類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 怠惰な感情や労苦からの逃避などの心の弱さから、働くことのよさや喜びを理解できず、みんなのために働き役に立とうとすることができないことがあることに気づき、働くことのよさを知り、みんなのために働くことにかかわる意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

多様な道徳的価値観を表出させるために、「継続して働くことは大変だからやめたい」「みんなの役に立つために働きたい」といったそれぞれの見方等をもとに、その理由や考えを明確にして、互いの見方等を比較しながら展開していく。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 	(分) ↑5 ↓	○ 勤労にかかわる自己の捉え方を明確にするために、「働き続けることは大変ではないか」と問い、自分の見方等と友達の見方等を比較させ、矛盾や疑問から問題意識を高めさせる。 ○ ダイゴの心情の変化に着目して話し合わせるために、資料を一読前に、はじめと最後の場面での表情絵を提示する。
さぐる	2 資料「がんばれ さくらじまフェリー」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) ダイゴの心情、心情の変化について感想をもち、追究していきたい場面を選択する。 (2) ダイゴが元気を取り戻したときの気持ちについて話し合う。 	20	◎「こんな顔になったのはどうしてかな」 ○ 多様な道徳的価値観を表出させながら話し合わせ、自らの道徳的価値観を再構成させるために、「続けることは大変だから止めたい」などの心の弱さにかかわる見方等を共感的に捉えさせる。その際、役割演技を行い「継続して働くことは大変だからやめたい」などの見方等と比較させ、「みんなのために働きたい」「相手も気持ちがよい」「うれしい」などの意義や心構えについて深めたり広げたりする。
見つける	【意 義】うれしい→相手も気持ちがよい→自分もみんなも明るく気持ちよく生活できる 【心構え】◎みんなの役に立とうとする。◎働く喜びを知る。○自分にできることを考える。○自分の生活を振り返るなど	8	◎「ダイゴはどのような気持ちの大切さに気付いたのだろう」 ○「みんなの役に立とうとする」、「働く喜びを知る」などの心構えと、その結果、自分も周囲も明るく気持ちよく生活できるといった意義を関係付けて考えさせる。
深める	(3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えを比べ、感じたことや考えたことを発表し合う。 	8	○ 道徳的価値のもつよさについて見方等を生活場面と関係づけて捉えさせるために、自分なりの考えをまとめる。その際は、手伝いや学校生活の写真・絵を提示し、具体的な場面を想起させながら、考えさせる。
見通す	3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 4 働くことのよさを感じ、みんなのために働くことにかかわる教師の話を聞く。	4	○ 子どもたちの課題が連続・発展し、実践化が図られるようにするために、学習してきたことを価値付けながら説話をを行う。